

# キャンプ施設利用者の再来性を高めるために

佐藤 孝 弘

## はじめに

アウトドアブームの広がりとともに、キャンプが盛んになっています。しかし、これからのキャンプ施設運営の課題のひとつとして再来者（リピーター）をどのように増やしていくかということがあります。一度だけではなく、何度も施設を利用してもらうことは、施設の運営にとって大切なことであり、さらに、自然の中へ数多く足を運ぶことによって、森林・林業に対する理解を深めることにもつながるでしょう。ここでは、再来者を増やすにはどのような問題が関係し、どのような方策が必要か、道民の森の利用者への意識調査をもとに考察しました。

## 調査地と調査の内容

調査は道民の森5地区のうち、キャンプ施設を有する神居尻、一番川、月形地区の利用者を対象に、1993年8月1日から10日間にわたって実施しました。調査内容は、利用者の属性（居住地、グループ構成、年齢）、設備・料金・再来性の評価、施設全体へのイメージ評価、自由記載による施設全体への意見や希望であり、解答数は3地区で286でした。

## 利用者の属性と設備・料金・再来性の評価

利用者の属性をみると、居住地では札幌市が最も多く、これに石狩・空知管内を加えると、全体の80%余りが現地近郊からの利用者でした。また、グループ構成は、家族連れが最も多

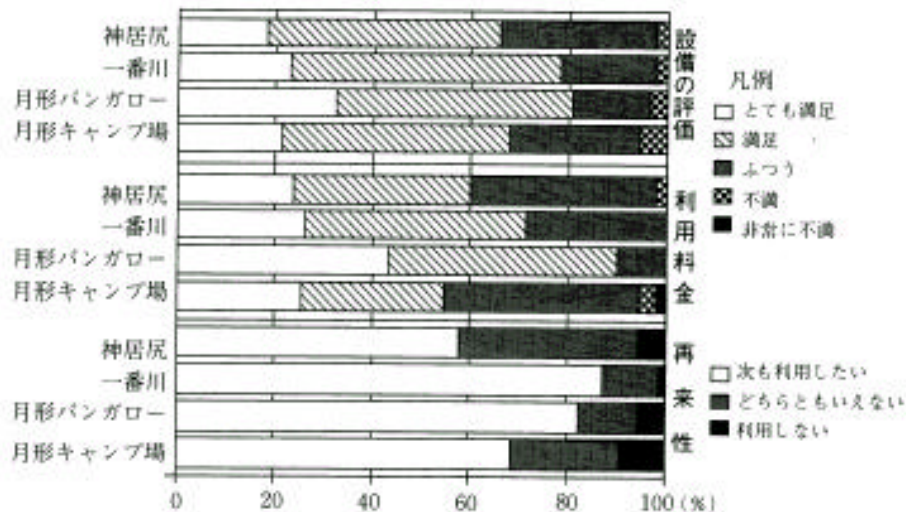


図 - 1 キャンプ施設に対する利用者の評価

く、年齢層では、30～40歳代が全体の80%を占めていました。これらの人達の評価をみると、設備・料金ともに、「とても満足」「満足」という解答が半数を超え、再来性についても、「次回も利用したい」という解答がすべての地区で過半数を超えていました(図-1)。これより、全般に施設に対する評価は良好であったといえます。しかし、その一方で否定的な解答もみられました。特に、再来性については、「利用しない」という解答の頻度が高かったといえます(図-1)。このような評価の原因を検証することは、再来性の向上に有効です。そこで、再来性の評価の低かった人達の意見に注目することにしました。

### 再来性の低さの原因

再来性に影響する要因として、居住地の違いが考えられます。表-1の上段は再来性の評価の割合を居住地別にみたものです。札幌市と石狩・空知管内では、再来性の高い人と低い人の割合に大きな違いはみられませんでした。その他の道内では、再来性の低い人の割合がやや高まりますが、それでも約70%の人が次も利用したいと答えています。これらの点より、再来性に対して、居住地の違いが決定的な影響を与えているとは考えにくいと思われれます。また、表-1の下段は、設備と料金の評価の平均値を再来性の違いからまとめたもので、再来性の低い人は、設備や料金の評価も低い状態にあります。再来性は、やはり、設備の状況に関連がありそうです。そこで、設備・料金・再来性の評価値の相関を調べたところ、再来性は設備に対して高めの相関が認められ、設備の良否が再来の判断基準となっていると考えられます。

表-1 利用者の再来性と設備・森林の評価・居住地

		次も利用 したい	どちらとも・ 利用しない
居住地	札幌市	145 (80.1%)	36 (19.9%)
	石狩・空知管内	51 (85.0%)	9 (15.0%)
	その他道内	16 (66.7%)	8 (33.3%)
設備の評価		4.83	3.69
森林の評価		4.15	3.57
設備と森林の評価		3.99	3.19
利用料金の評価		4.22	3.53

居住地別評価の上段は者数の合計、カッコ内は比率  
施設・森林・料金の評価は5段階評価の平均値

### 利用者の設備に対する意見・希望

それでは実際に、利用者は施設・設備に対してどのようなことを望んでいるのか、ここでは、再来性の高かった人達も含めて、テントを持ち込んでキャンプを行う「神居尻地区」と「一番川地区」の利用者の意見や希望をもとに、そのあり方について考察します。

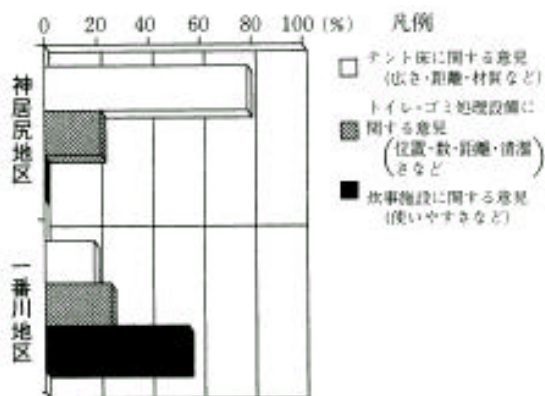


図-2 キャンプエリア内の設備への意見

(1) キャンプエリア内の設備への意見・希望

図 - 2 は、2 地区のキャンプエリア内の設備への要望をまとめたものです。神居尻地区では、テント床の広さや材質、キャンプエリア全体の広さを確保してほしいという要望が多かったのに対し、一番川地区では炊事施設への意見が多い結果となりました。特に、神居尻地区にみられた「広さ」の確保は、キャンプ生活を快適にするためにとても重要な要素であるといえます。

(2) 森林と自然体験の場について

図 - 3 は 2 地区の森林や自然体験設備への要望をまとめたものです。神居尻地区では、テント床やまわりの森林をもっと充実させてほしいという要望が多かったのに対して、一番川地区では、散策路や自然を生かした遊具など、森林や自然の中に入っていくための設備の充実を望む内容が多くみられました。ヤチダモやハリギリ、ホオノキなどを中心とする神居尻地区の樹林に比べて、一番川地区はカツラ、ハルニレの高齢木が中心であり、利用者はこのような自然を様々な設備を通して体験し、満喫したいと考えていることがわかります。

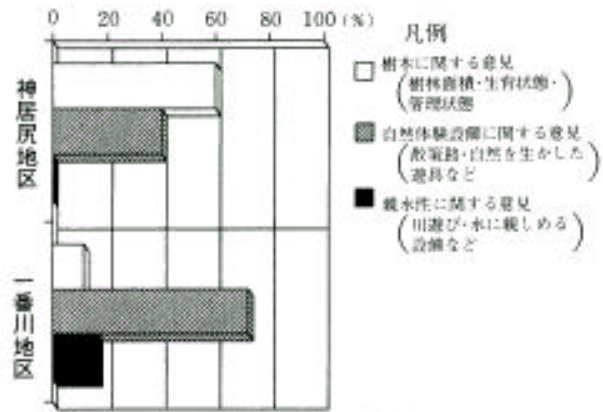


図 - 3 森林・自然体験設備への意見

施設全体へのイメージ評価

表 - 2 は、利用者の施設全体に対するイメージ評価の評定値を再来性の高い人達と低い人達で比較したものです。各施設ごとにみると、神居尻地区では「広さ」のイメージが再

表 - 2 再来性によるイメージの違い

イメージ	再来性	神居尻		一番川		月形	
		利用する	しない	利用する	しない	利用する	しない
親しみやすさ		4.10	3.50**	4.46	4.00**	4.52	4.27
新鮮さ		3.87	3.50	4.24	3.53**	4.15	3.94*
すがすがしさ		4.00	3.79	4.52	3.73**	4.51	4.00*
広さ		4.10	2.64**	4.69	4.67	4.63	4.31
明るさ		4.09	3.77	4.34	3.67	4.20	3.35*
神秘性		3.65	3.21	3.63	3.20	3.65	3.64
自然性		3.91	3.33	4.28	4.00	4.46	3.81
変化性		3.50	3.29	3.60	2.87**	4.26	3.81

\*5%水準で有意 \*\*1%水準で有意

来性の低下の主な要因となり、一番川地区では「変化性」に対するイメージの評価が再来性に影響している結果となりました。

また、月形地区では、再来性に影響する要因は抽出されませんでした。ここにみられた「広さ」「変化性」のイメージは、具体的な施設のあり方とどのように関連しているのでしょうか。

「広さ」は、文字通りに施設の広さから得られるイメージです。具体的には、テント床やそれらを含むキャンプエリア全体のスペースを十分に確保し、利用者がゆったりとできる居住性

を確保することになります。また「変化性」は、「自然の移ろい」や「キャンプ生活での非日常性」と関連すると考えられます。つまり利用者は、「キャンプでなければできない経験」を望んでおり、それには、周囲の自然の豊かさとそれらを満喫するための場が必要になります。

#### お わ り に

これまでのキャンプのスタイルはどちらかという山岳志向型であり、そこでは、省装備・省スペースが大切なことでした。これからのレジャー型のキャンプにおいては、キャンプ用品の多様化、RV車の普及などを背景として、装備も参加者も多くなり、滞在期間の長期化や質の高い自然に対するニーズも高まるものと考えられます。このようなキャンパーの変化と今回の調査の結果を考えると、キャンプ施設の整備と再来性の向上のためには、施設全体の広さの確保、キャンプエリア内の樹木の充実、さらには、周囲の豊かな自然と利用者を結ぶ設備づくりが不可欠であると考えられます。

(保健機能科)